

## 財政収支(2017年1-7月)

(1) 2017年1-7月における歳入は前年同期比10.7%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は15.6%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比26.6%増加するなど、歳出全体では18.9%の増加となった。

(3) 財政収支は243億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは73.5%減少し、84億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	317,544	351,665	10.7%
税収	252,665	292,134	15.6%
所得税	55,198	62,148	12.6%
法人税	20,657	27,365	32.5%
付加価値税(国内及び輸入)	71,806	82,970	15.5%
特別消費税	63,985	73,203	14.4%
その他税収	41,019	46,448	13.2%
税外収入等	64,879	59,531	▲8.2%
歳出(b)	316,266	375,975	18.9%
人件費	89,288	95,684	7.2%
物品及びサービスの購入	26,027	31,335	20.4%
経常移転	127,383	161,313	26.6%
資本支出	18,636	25,401	36.3%
支払利子(c)	30,588	32,752	7.1%
その他歳出	24,344	29,490	21.1%
財政収支(a-b)	1,278	▲24,310	▲2002.2%
基礎的財政収支(a-(b-c))	31,867	8,442	▲73.5%

## 経常収支(2017年1-6月)

(1) 2017年1-6月の経常収支は、前年同期比9.1%減少し、208億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比10.5%の減少、旅行収支は同12.8%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

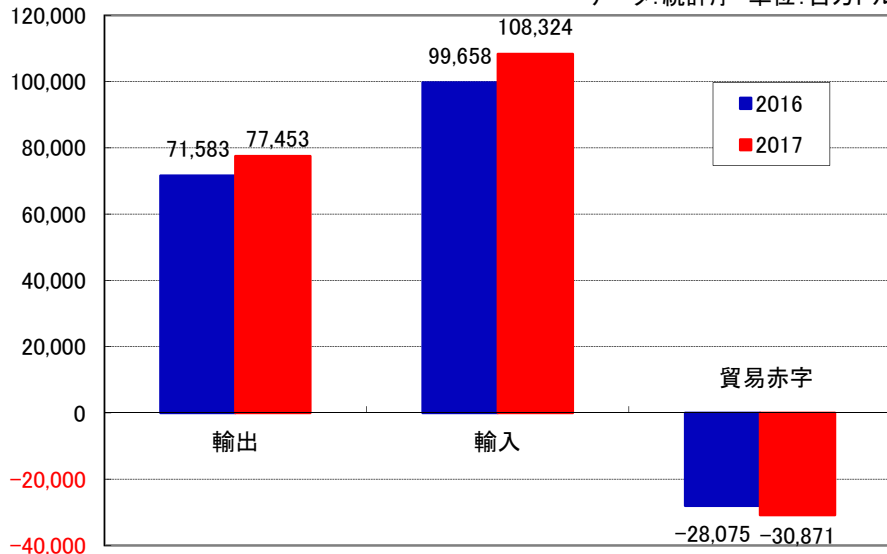
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲19,039	▲20,773	▲9.1%
貿易収支(物品)	▲20,313	▲22,453	▲10.5%
サービス収支	4,900	6,091	24.3%
旅行収支	4,706	5,308	12.8%
その他サービス収支	194	783	303.6%
第1次所得収支	▲4,543	▲5,485	▲20.7%
第2次所得収支	917	1,074	17.1%
労働者送金	259	235	▲9.3%
その他第2次所得収支	658	839	27.5%
資本移転等収支	15	▲2	▲113.3%
金融収支	▲17,174	▲25,249	▲47.0%
直接投資	▲3,725	▲3,204	14.0%
証券投資	▲8,367	▲17,410	▲108.1%
その他投資	▲13,544	▲2,235	83.5%
外貨準備	8,462	▲2,400	▲128.4%
誤差脱漏	1,850	▲4,474	▲341.8%

## 貿易収支(2017年1-6月)

(1) 2017年1-6月の輸出額は775億ドル(前年比8.2%増)、輸入額は1,083億ドル(同8.7%増)となり、この結果貿易収支は309億ドルの赤字(同10.0%減)となった。

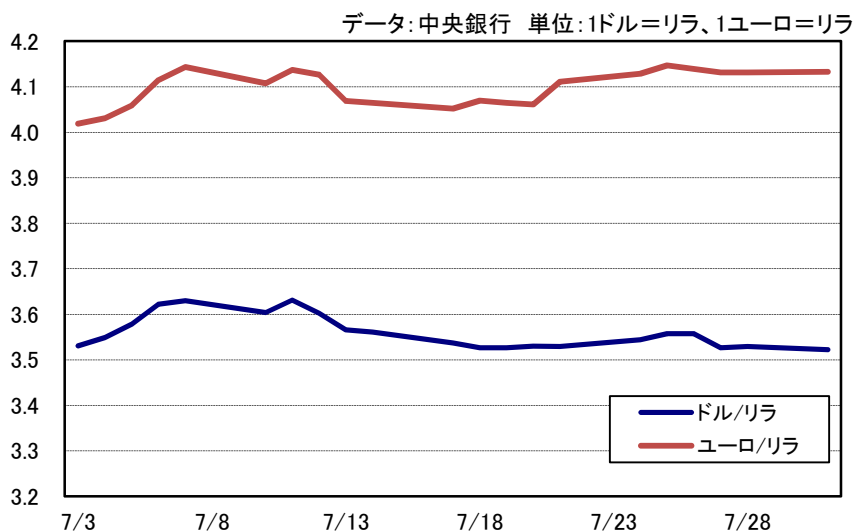
(2) 2017年1-6月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.1%(前年48.2%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.8%(同39.1%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



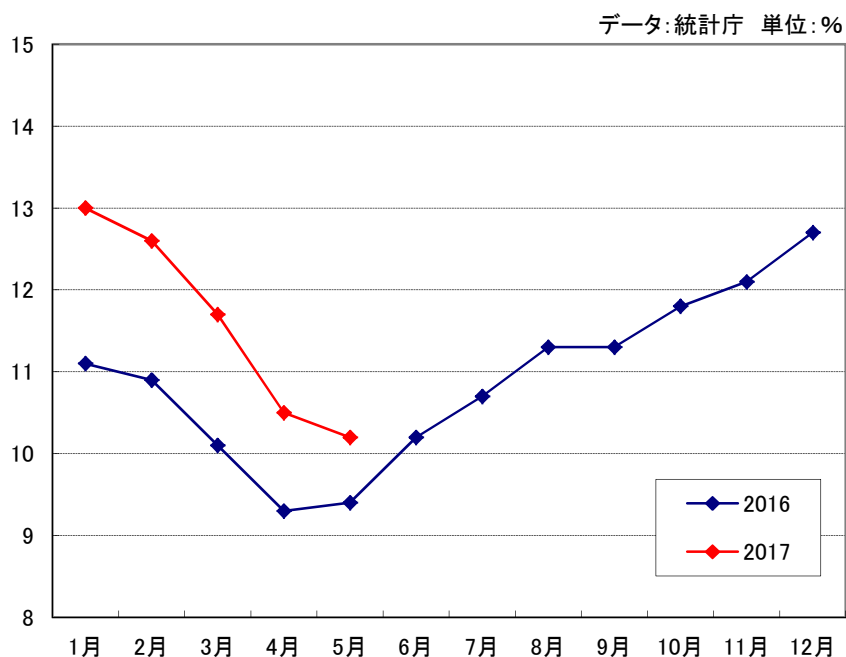
## 為替(7月)

(1)7月のドル・リラ相場は、上旬には一時1ドル=3.6リラを上回ったが月を通して小幅な動き。最終的には、1ドル=3.52リラとなった。  
 (2)ユーロ・リラ相場は引き続き、ユーロが買われ、1ユーロ=4リラを超える水準を維持し、1ユーロ=4.13リラで越月した。



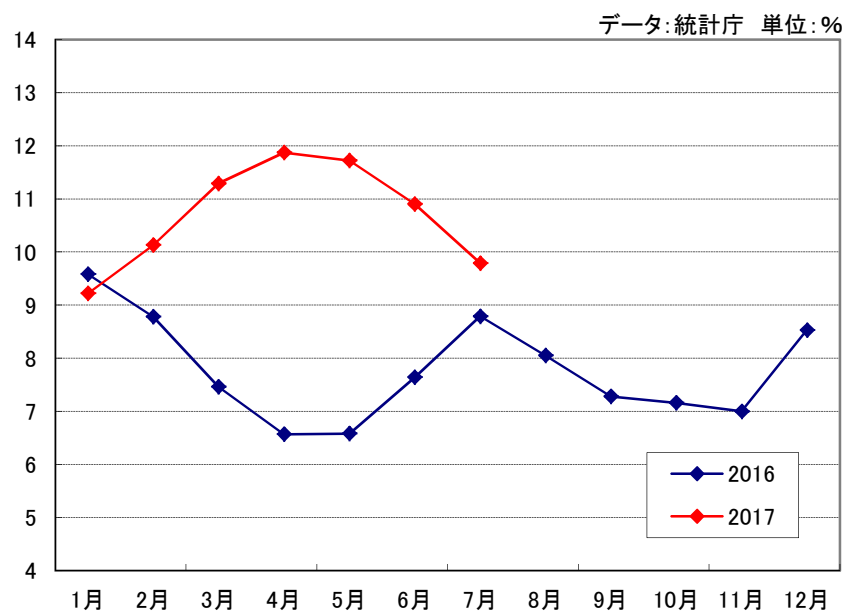
## 失業率(5月)

(1)2017年5月期の失業率は、10.2%。前年同期からは0.8ポイントの上昇、前月からは0.3ポイントの下落。  
 (2)労働力人口は3,171万人、就労者数は2,849万人、失業者数は323万人。  
 (3)男性の失業率は8.8%、女性は13.0%。若年層(15-24歳)の失業率は19.8%となっている。



## 物価上昇率(7月)

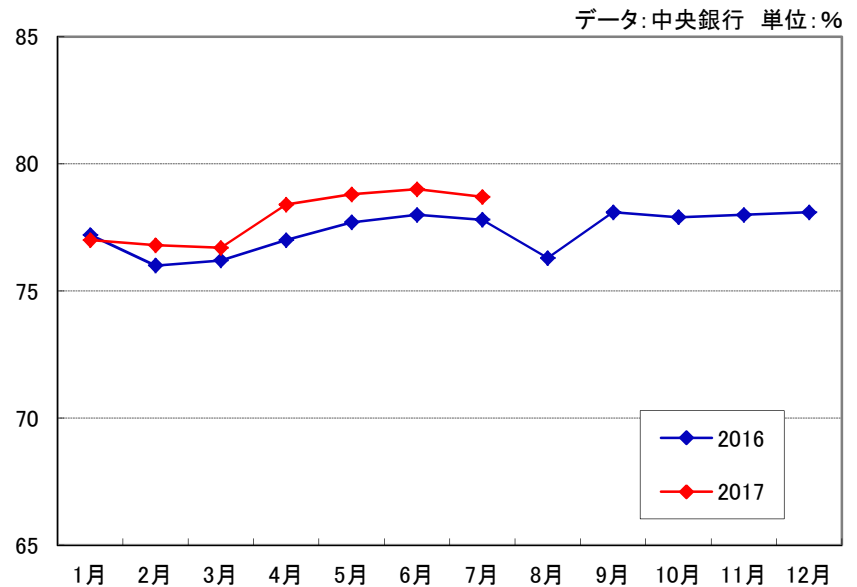
(1)2017年7月の消費者物価は前月から0.15%の上昇。年間では9.79%の上昇。  
 (2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのはホテル及びカフェ・レストランで1.75%。年間で最も上昇したのは運輸で15.24%。  
 (3)本年末の中銀見通しは8.7%。  
 (4)国内生産者物価指数は前月から0.72%上昇し、年間で15.45%の上昇となった。



## 設備稼働率(7月)

(1)2017年7月の設備稼働率は78.7%となり、前月から0.3ポイントの下落。前年同月からは0.9ポイントの上昇となった。

(2)製造業の分野別では、自動車、トレーラー及びセミトレーラー(87.1%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.6%)が最も低い稼働率であった。

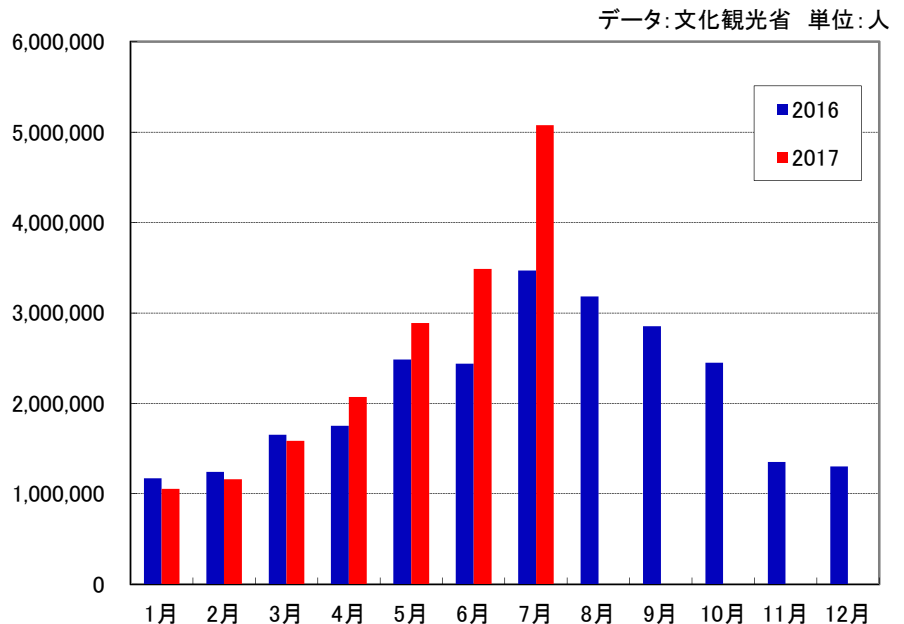


## 旅行者数(7月)

(1)2017年7月にトルコを訪れた旅行者は508万人であり、前年同月比46.4%増となった。

(2)旅行者数を国別に見るとロシアからの旅行者数が最も多く83.6万人で全体の16.5%を占める。以下、ドイツ(68.1万人)、英国(27.8万人)となっている。

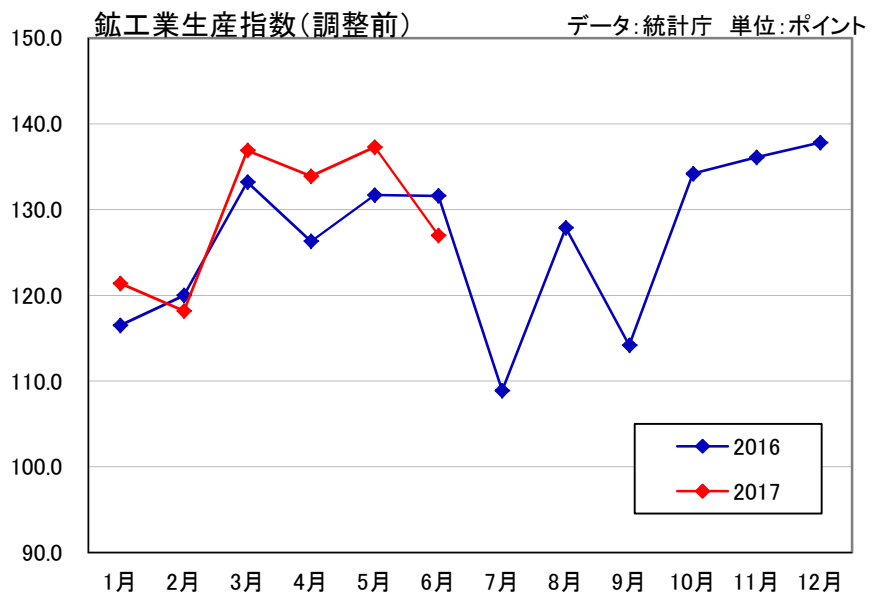
(3)なお、日本からの旅行者は4,717人(前年同月比41.8%増)となった。



## 鉱工業生産指数(6月)

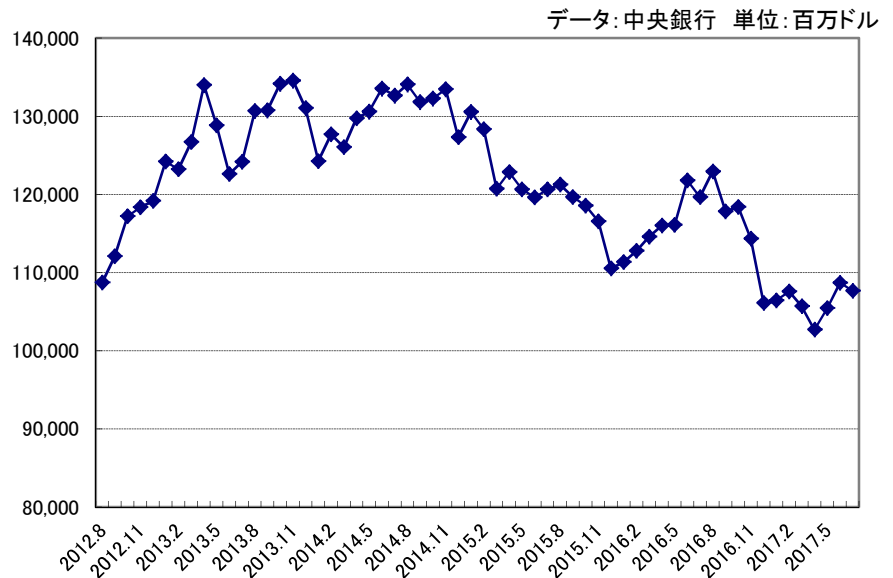
(1)2017年6月期の鉱工業生産指数(調整前)は127.0ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は3.4%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は0.4%の下落。

(2)分野別では、資本財が前月比3.8%増、中間財が同2.2%減となっている。



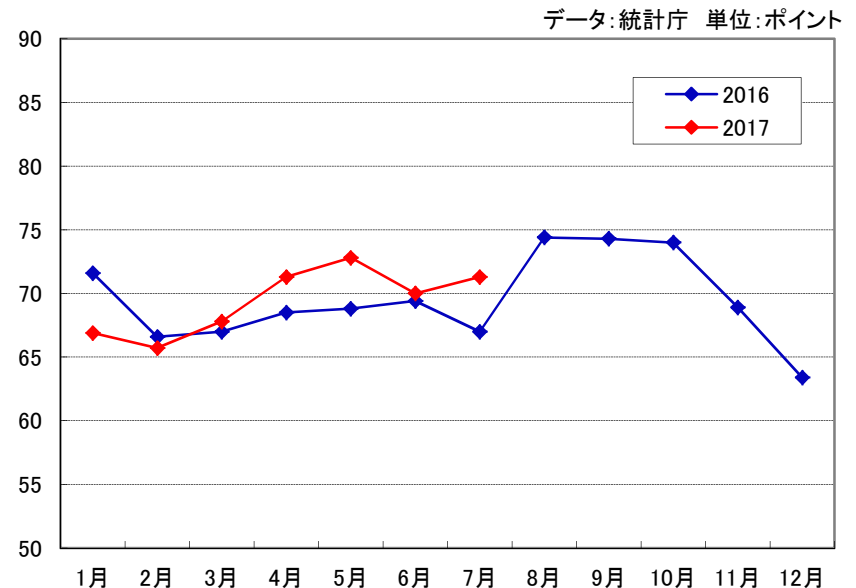
## 外貨準備高(7月)

(1)2017年7月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,076億ドルとなった。  
 (2)外貨準備高は、近年順調に増加していたが、2012年の水準まで落ち込んでいる。



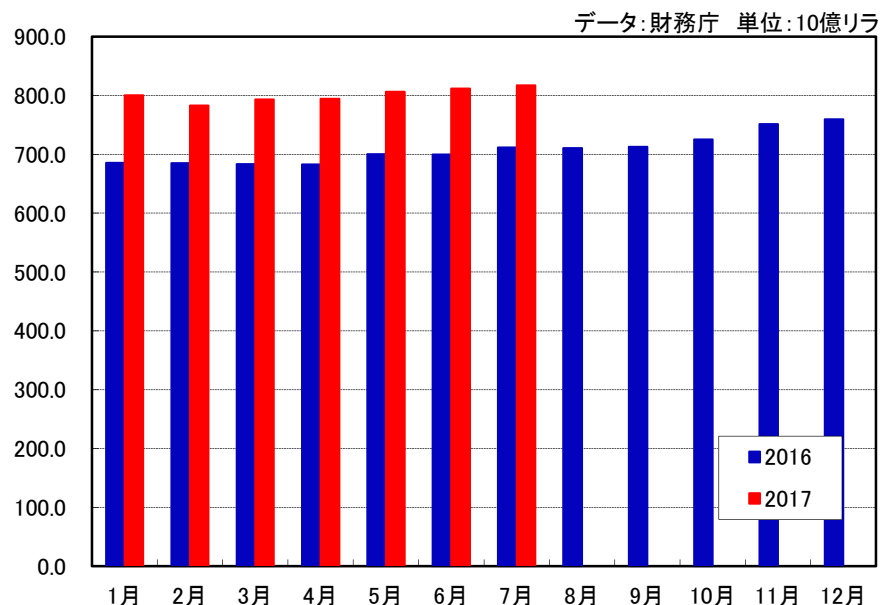
## 消費者信頼感指数(7月)

(1)2017年7月期の消費者信頼感指数は前月の70.0ポイントから1.9%上昇し、71.3ポイントとなった。  
 (2)内訳では、失業者数の見通しが5.2%上昇し74.4ポイント、貯蓄可能性が5.8%上昇し23.3ポイントとなった。



## 中央政府債務残高(7月)

(1)2017年7月時点での中央政府債務残高は8,171億リラとなり、前年同期比14.8%増加した。なお、前月比では0.7%の増加となった。  
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に61.8%となっている。  
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.5%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。